

令和4年度秋田県総合政策審議会
第1回 観光・交流部会
(議事要旨)

1 日時 令和4年5月24日(火) 15:10~17:00

2 場所 総合庁舎607・608会議室

3 出席者(敬称略)

【観光・交流部会委員】

丑田 俊輔・・・ハバタク株式会社代表取締役

齋藤 あゆみ・・・旅のわツアー代表

佐々木 亜希子・・・能代市市民活動支援センター長

吉澤 清良・・・公益財団法人日本交通公社観光文化振興部長

【県】

観光文化スポーツ部 次長 岡部 研一

次長 菅生 淑子

食品産業振興統括監 柴田 靖

インバウンド推進統括監 益子 和秀

観光・交流戦略関係課長 ほか

4 岡部観光文化スポーツ部次長あいさつ

本日は、当部会のキックオフということであり、一言、御挨拶申し上げます。

新プランの中で、当部会の所管は観光・交流戦略であり、交流人口の拡大がミッションとなっている。御案内のとおり、コロナの感染拡大への対応として、令和2年度の6月補正予算から継続的に対策をしており、県民割など事業の効果も出てきている。

一方、コロナ禍を通じて、地方への関心や、本県の有する自然などのクリーンな面にも価値を見いだしていただけるような動きもある。

こうしたプラス要素を、観光、食、文化、スポーツ、交通などの分野を連携させ、総合力を持って取り組んでまいりたい。委員の皆様にあっては、来年度当初予算への提言についてお知恵をいただきたい。

本部会は、当部のほか、建設部の分野もあり、幅広い戦略となっている。限られた時間の中で、様々な分野について、御意見・御協力をいただきながら、提言をまとめていきたい。

5 委員自己紹介

6 部会長の選出及び部会長代理の指名

●部会長について、丑田委員から、吉澤委員を推薦する発言あり

(了承)

●部会長代理について、吉澤委員から、佐々木委員を指名する発言あり

(了承)

7 議事

(1) 令和4年度観光・交流部会の進め方について

□佐々木観光戦略課長

(部会のスケジュール等について、資料1により説明)

●吉澤部会長

ただ今の説明に、質問はあるか。

(なし)

(2) 「新秋田元気創造プラン」戦略3の推進に係る令和4年度の主な取組について

□佐々木観光戦略課長

(観光文化スポーツ部 今年度の主な取組について、資料2-1により説明)

□伊勢道路課長

(建設部 今年度の主な取組について、資料2-2により説明)

□伊藤参事(兼)港湾空港課長

(建設部 今年度の主な取組について、資料2-2により説明)

●吉澤部会長

全体の建付けを確認させていただきたい。

本日開催された総合政策審議会で説明があったが、当部会の役割はこの観光・交流戦略の次年度に係る提言をまとめることである。プランが最上位の計画としてあり、個別計画として「秋田県観光振興ビジョン」がある。

今年度の取組として、観光文化スポーツ部と建設部のそれぞれの概要を御説明をいただいたが、これから、本部会において、次年度以降に取り組むべきことを議論していただきたい。

まずは、ただいま説明があった今年度の主な取組について、確認や御提案など、委員の皆様から御意見いただきたい。

●佐々木委員

デジタル技術を活用した稼ぐ観光産業への転換に向けて、具体的にどのような取組を行っているか。

□佐々木参事(兼)観光振興課長

県内における観光客の動きや観光事業者が保有しているデータなどは、これまでは観光統計としてまとめていたが、今年度は男鹿市をモデル地区として設定し、実際の観光事業者から観光客の動きや、お土産等の購入品などのデータを可能な範囲で集める事業を試験的に行

っている。

また、観光エリア内での二次交通などの課題に対して、デジタル技術を有するスタートアップ企業を公募し、これらの公募企業と地域をマッチングして、課題の解決を目指す実証事業を行う予定である。

●佐々木委員

男鹿をモデル地区とした理由は何か。

□佐々木参事（兼）観光振興課長

県境の観光地は、観光客が県内に入っても、すぐに県外に出ていく、又はその逆の動きが多く、正確なデータがとりづらいところがある。

一方、男鹿は、男鹿温泉郷を中心に、その周りに観光施設があるため、観光客の行動や購買等データを集めやすいと考えている。

●吉澤部会長

デジタルは使い勝手がいい言葉なので、人によってとらえ方も違ってくる。実施方法やそのメリット等について、観光事業者等の関係者に対し、具体的に伝えていくことが必要である。

●丑田委員

デジタル観光プラットフォームについて、具体的な取組はこれからだと思うが、構築したシステムを効果的に運用する視点や、日々進化する新たな技術に適用していく視点も必要と考える。

デジタル技術の活用については、その技術を客観的に評価・選択することが重要になるので、他の課も含めて、領域横断的に目利きができるデジタル監のような人材の確保など体制の充実も重要である。

□佐々木参事（兼）観光振興課長

デジタル政策推進課に所属する専門的知識を有したアドバイザーに、主にDMP構築について事業の進め方などを相談している。

●吉澤部会長

デジタル技術は日進月歩で、新しいと思っていたら古くなっている。スピード感を持って取り組むことが必要である。

●佐々木委員

大館能代空港3便化の定着に向けて、具体的にどのような取組を行っているか。

□三浦地域交通対策監

コロナ禍の状況下で2便となっていたが、4月28日から3便となっている。ゴールデンウィーク後は金土日の週3日の運航となっていることから、平日も3便で常態化できるよう、キャッシュバックキャンペーンなどの取組を行っている。

●佐々木委員

大館能代空港は、元々、利用者が少ないことが問題であり、飛行機の発着時刻が使い勝手がよくない時間帯に設定されていることが原因である。能代市でも運賃を補助しているが利用者が少ない。利用者から見て、補助制度の使い勝手もよくない。

現状、平日は仕事関係の利用者が多い。利用者のターゲットを絞ることで利用者の増加に結び付けることも考えられる。

伊勢堂岱遺跡では、以前は観光客が多かったがコロナで減った。伊勢堂岱遺跡の観光客は、大館能代空港を使う方が多い。遺跡は観光の目玉なので、空港利用者のターゲットを絞ることや補助金制度の改善などを組み合わせて、利用者の増加につなげてほしい。

□三浦地域交通対策監

コロナの影響はまだあるものの、4月、5月に行動制限が課されなかったにもかかわらず、全国と比較して、県内空港の利用者の戻りは遅い。大館能代空港の周辺には、世界遺産である伊勢堂岱遺跡や白神山地がある。観光振興課と連携して観光誘客に取り組みたいと考えている。

●吉澤部会長

大館能代空港をどう効果的に活用していくかは悩ましい問題である。東京から来ると土地勘がないので、観光地間でどのくらい時間がかかるか、どう回ったらいいか分からない。

そういった情報を、地元が丁寧に発信する必要がある。例えば、モデルとなる観光コースを示して、各観光ポイントをこの順番で回ると、このくらいの時間がかかるなどの情報を、観光客向けに発信すべきである。

●齋藤委員

クルーズ船について伺いたい。旅行エージェントだけではなく、個人の観光客からニーズ等を聞くことによって、誘客に向けたキーワードが増え、クルーズ船受入れのためのサービスを向上させることができる。

単純に観光地を見せるのではなく、県内で既に人気の大手ではできないような地域密着型のパッケージツアーを造成したものをPRして見せ、エージェントに魅力あるコンテンツを見せる必要がある。

エージェントにアプローチすることはもとより、エージェントのツアーに参加しない個人客にもニーズ収集のためのアンケートを取るなど、アプローチをして欲しい。

□伊藤参事（兼）港湾空港課長

クルーズ客の約半分はオプションツアーに参加している模様で、訪問先の多くは角館、

田沢湖、男鹿方面となっている。残りはフリーの個人客で、クルーズ列車やタクシー、レンタカーなどで移動し、観光や食事、お土産の購入を楽しんでいる。

3年前に寄港地観光を企画した旅行会社やフリー客に聞き取りし、訪問先の傾向や消費額を集計したことはある。

●吉澤部会長

調査結果については、関係部署等と共有を図るほか、今後の施策に活用してほしい。

●丑田委員

観光振興ビジョンに地域別プロジェクトがある。地域の視点で実践することは重要である。資料2-1の主な取組と地域別プロジェクトはどのように関連しているか。

□杉田観光戦略課政策監

観光振興ビジョンでの地域別プロジェクトは、地域振興局が中心となり、各振興局単位で進めることとしている。具現化については各地域振興局の観光関連予算を活用することはもとより、市町村や地域の観光団体等との連携を図りながら進めていく。

●丑田委員

地域振興局単位であればコンパクトになってしまう。本庁と連携しながら進めるべきである。

(3)「新秋田元気創造プラン」戦略3の推進に係る施策の提言について

●吉澤部会長

新プランの68ページから70ページにかけて、現状と課題の記載がある。プランの策定作業の開始は約1年前で、特に観光分野は環境の変化は激しいものがあることから、当時の認識から変わっているところもあると思う。

現状と課題について、策定当時からの変化や新たな課題などの御意見をいただきたいと思う。

まずは、観光と食について、御意見をいただきたい。

●齋藤委員

発酵を売りにしている県は多い。首都圏からの観光客が狙いと思うが、秋田県と新潟県において同じようにPRをした場合、移動にかかる経費と時間で考えると、首都圏の観光客は近場である新潟県を選ぶ。物理的な差がある中、同じ発信では秋田を選んでいただくのは難しい。秋田を選んでもらえるような差別化が重要である。

生産者の思いはそれぞれ違うので、商品づくりにストーリーを持たせ、デジタル技術で消費者と生産者をつなぐなどの差別化が一つの方法として考えられる。

●吉澤部会長

秋田を選んでもらえるような情報発信の不足が指摘される。同じような環境で同じ体験ができるなら、近くが選ばれるのは消費者の基本的な傾向の一つである。

●丑田委員

秋田には国内外から注目されるいい食文化はあるが、課題は、情報発信とエリア内の連携である。既に脚光を浴びているコンテンツを活かしつつも、より幅広く、中長期的な視点をもって進めていくことが大事である。

例えば、食に携わる次世代の若者を育てていくような教育分野での施策のほか、世界や東京において第一線で活躍された方が秋田へU I ターンしたくなる環境づくりなど、食と観光の連携が必要と思う。

●吉澤部会長

今後、コロナの感染状況によりインバウンドが戻ってくると思うが、インバウンド政策の見直しをどう考えているか。

●丑田委員

インバウンドはこれまでの入国規制等への反動で増えると思うが、その対応として、移動・予約・体験等のデジタル化など、受入態勢の整備を先行して取り組んでいくことが必要である。

●佐々木委員

インバウンドのターゲットはどこを想定しているか。

□益子インバウンド推進統括監

コロナ前、本県においては台湾が一番多く、東北に新たな路線が就航したり、チャーター便が増えたことにより、本県への宿泊も増加した。

中国は、日本全体では一番多かったが、東北はまだ認知度が低くそれほど多くない。一方で、コロナの影響等で今後は見通せない。

韓国は、ソウルとの定期便が就航していた期間は一定の観光客が来ていたが、日韓関係の悪化などの影響で、運休が続き、その後は下降気味になっている。

コロナ後、どこから再開されるかまだ見通せないが、ウクライナ情勢をはじめ国際情勢が不安定であることなどを踏まえると、1国に偏ることはリスクがある。多方面を見ながらプロモーションを展開させた方が良いと考えている。

●佐々木委員

東アジアがターゲットとなるか。

□益子インバウンド推進統括監

基本的に東アジアがターゲットである。

ただし、例えば、コロナ前、オーストラリア人は、北海道のニセコに大挙して訪れ、次第に田沢湖スキー場にも来るようになるなど、今後は東南アジアや欧米、ニュージーランドなども視野に入れ、幅広く誘客に取り組むこととしている。

●吉澤部会長

コロナを受けてインバウンドのターゲットの見直しは必要である。アンケート結果を見れば、日本全般であるが、東アジアの方々の関心は非常に高い。

その際、秋田が訪問先として選ばれるための視点が大事であり、需要を先取りした対策と準備が重要である。

次に、文化とスポーツについて御意見をお願いしたい。

●佐々木委員

子どもに対して、もっとプロフェッショナルな方が指導する環境を整えることが必要と考える。秋田においてもプロの方に指導してもらったと思うが、どういう経緯で行ったものか。

□佐々木観光戦略課長

野球であれば、恐らく高野連が主催して実施したものだと思う。

●佐々木委員

子どもの数が減少している中、単に試合に勝てばいいという考えではなく、頑張っている子どもたちの能力を伸ばす取組が必要と考えるがどうか。

また、高校野球の金足農業はもとより、県内にプロスポーツチームがあるバスケット、サッカーなどのスポーツは人を引きつけるので、行政がしっかりとサポートして欲しい。

□米田スポーツ振興課長

全国的な話ではあるが、地域のボランティアの場合、ハラスメントなどの問題があったことから、日本スポーツ協会では指導者資格の制度を作った。地域の競技団体も指導者資格を持つように、育成していく必要があり、県としても連携して取り組んでいる。

誤った指導の結果、競技をやめてしまうなどの不幸がないようにすることが重要であると考える。自立的・自発的に取り組み、その結果が勝ちにつながると考えており、金農の活躍は大いに参考となる。

●吉澤部会長

生活交通と観光交通は路線が重なるところもあるが、生活交通について御意見を伺いたい。

●齋藤委員

交通の不便さを売りにした観光もあり得る。例えば、関東に近い観光地であれば、非日常的な感覚を味わえるところがあるので、交通の不便さを「売り」としてPRすることもでき

と思う。

●吉澤部会長

生活交通と観光交通は地域や路線が重なっているところがあるが、生活交通についてご意見を伺いたい。

●佐々木委員

地域住民からすれば、生活交通の現状は切実である。私は住んでいるところが三種町で、仕事場所は能代市である。三種町は、バスを町が運営しており、利用者は多い。一方、能代市でも、市街地巡回バス、乗合タクシーなどの運行をしているが、移動に不自由している人が多いと伺っている。

例えば、去年は、能代市二ツ井の梅内地区で地域活性化に向けた協議などを地域住民等が参加して行ったが、その地域においては、現在、60代が若手で、80代でも車の運転をしている状況であり、10年後は更に高齢化が進み継続は厳しいと思う。県南でも状況は同じと考えている。除排雪も70代、80代が行っており、このままで立ち行かなくなると思う。

三種町では自分たちで危機感をもってバスを運行しており、これが理想だと考える。能代では声を上げづらく、行政の強い働きかけもない。そのままでは立ち行かなくなるとはわかっており、行政からの働きかけが必要と思うが、こうした意見を各自治体に伝えることはできるか。

□三浦地域交通対策監

交通について話し合う協議体は、県・市町村にあり、バス路線の再編の話もできる組織であって、利用者の方も参画している。本部会での意見も、市町村や事業者等と共有していきたいので、積極的に御提言いただきたい。

●吉澤部会長

生活交通と観光交通をどう融合させるかが重要である。バス路線がないから人がいない、逆もあり得る。個人的には、秋田は二次交通の面では先進地であると思うが、生活交通では地域の生活者の切実な声もあるので、これからも生活交通及び観光交通について議論していく必要がある。

●丑田委員

公共交通は限界があり、全国的にも縮小している。一方、共助による共有交通という考え方の下、全国では、住民同士の交流や買い物支援等もセットで行っている事例もある。ウィラーというバス会社では、AIが快適なルートを選定しながら、利用者が最短ルートで目的地まで行くことができる「m o b i」というサービスを提供している。このような事例も、参考にしてほしい。

スポーツにおいても移動が重要であると考えます。先ほどのシステムは、スポ少や部活の送り迎えにも活用できると思う。学校の統廃合で、子ども同士で自由に遊びに行きづらい環境

下にあり、交通手段の有無の影響は大きい。子どもも高齢者も、交通手段があることで、歩いて楽しめる環境にあることが重要である。

□三浦地域交通対策監

バスや乗合タクシー、コミュニティバスなどの運行データをほぼすべての路線においてオープンデータ化しており、併せて運行情報の発信も行っている。

公共交通は、公費で支えているのが現実だが、利用者を増やしていくことも重要であり、市町村と共に取り組んでまいりたい。

●吉澤部会長

新プランは目指す姿1から5により構成されているが、方向性の追加や主な取組の追加などについて意見をいただきたい。

●佐々木委員

目指す姿1にDMOの記載がある。DMOにおいて、共通する誘客目標などはあるか。

□佐々木参事（兼）観光振興課長

県で目標設定はしていない。

●佐々木委員

能代では、DMOが作られる前に観光協会があったが、行政と観光協会がバラバラに動いている印象を受けた。DMOでは、長年、調査を行っているが、その結果をどう利用するのか分からない。

□佐々木観光振興課長

県内にはDMOが数多くあり、運営状況もそれぞれである。DMOの目的は「稼ぐこと」であり、それぞれの置かれた立場の中で目的達成に向けて頑張ってもらいたい。

●吉澤部会長

観光協会がDMOになるケースは多いが、DMOへの移行は観光振興を行っていく上での一つの手段である。地域でDMOの必要性をよく議論した方がよい。

●齋藤委員

岩手・山形では、女性をターゲットとしたサービスが充実しており、女性が喜ぶサービスを発信して人気をつくっている。人気のある旅館をモデルに、ハード整備は費用負担など対応が難しいので、サービス面やソフト面を分析し、県内の宿泊施設等への情報提供を行うべきである。

●佐々木委員

先ほどストーリー性が重要という意見があった。東京にいれば秋田ではなく、山形に行ってしまう。おいしいものがあるし、魅力ある宿もある。先日、鳥羽を訪れた際、女性の二人旅が多いと感じた。鳥羽は温泉や観光を楽しむことができる、スピリチュアルな地域でもある。今後の観光や食の振興において女性ターゲットは重要であり、無視することはできない。秋田美人は、他県にはないアピールポイントなので、PRポイントに利用すべきだと思う。

発酵についてもストーリー性を持って取り組むことが必要であり、行政がサポートしてほしい。

●吉澤部会長

秋田美人、あきたこまち、なまはげ、秋田犬、それぞれバラバラにPRしている印象はぬぐえない。

様々な事項を組み合わせながら効果的に発信する取組が必要ではないか。

●齋藤委員

秋田は「素材は良いものが多い」と言われている。宿においても、良い素材を調理して綺麗に見せるなどの工夫が必要と考える。素材プラス料理の見せ方など、単純に一つのことを発信するのではなく、発信力を倍にするような考え方が必要であると思う。

●吉澤部会長

目指す姿3の文化について、御意見を伺いたい。

●佐々木委員

ミルハスでは、ブランディングマネージャーを置いているのか。

□安田文化振興課長

ブランディングマネージャーは特に置いておらず、指定管理者制度により民間事業者の共同事業体が運営している。秋田県民会館と秋田市文化会館の機能を合わせ持った施設となっている。

●佐々木委員

ミルハスでは、催し物を開催するだけでなく、県民が気軽に遊びに来られる環境づくりが必要ではないか。

□安田文化振興課長

そのとおりである。ミルハスは、文化芸術の場としての機能のほか、人が交流してにぎわいを創出する場所でもある。エントランスロビーにも自由に出入りができるようにしており、そこでミニコンサートを開催するなど、様々な世代が楽しむことができるようにしたいと考えている。

●吉澤部会長

地元の人が集ってこそのにぎわいであり、地域の文化を生かすことが大切であるとする。

●丑田委員

秋田公立美大をはじめ大学の存在は貴重である。卒業生が地域に残り文化的な活動やアーティストとして活躍できる環境を整えること、ミルハスにおいてもこうした次世代が活躍できる場を作るなど、若いクリエイターが秋田に来たくなるようなプロモーションが必要ではないか。

●吉澤部会長

目指す姿5の交通について、秋田県ではないが山形県の新庄市からの陸羽西線が2年間運休となる。鳥海山方面、秋田県にかほ市にとっても痛手となるのではないか。

複数の自治体にまたがる事案は市町村では対応が難しいので、県で調整、支援することが必要ではないかと思う。

□三浦地域交通対策監

国がリードする形で、JR在来線の利活用やあり方の検討が進められている。県としても関心を持って見ているところである。

●吉澤部会長

シャワー効果という言葉がある。例えば、上階の施設を充実させることで、上から下への人の流れをつくり、店舗全体の売り上げ増加につなげる方法である。大館能代空港、また、青森から入った観光客が県北で快適に過ごせるか、どう周遊につなげていくか考えていく必要がある。

最後に、総括的に意見があれば伺いたい。

●齋藤委員

東北風土マラソンは、東北地方の名物を走りながら食べる企画で、東北の食材と日本酒を世界に向けて発信するイベントとして、広く効果的にPRしている。こういう事例は参考にしたい。話題性を利用することが大事である。

●丑田委員

「何度でも訪れたい秋田」の創出は重要である。観光客という立場を越えて、地元の人とのつながりを持つことや地域の行事等へ参加することを通じて、2回目以降も訪問したくなる仕掛けをつくっていく。

教育旅行についても、親が子どもを連れて毎年来たいと思ってもらうことなど、観光を軸にしながらも、領域を越えて、関係人口の拡大につなげていく視点を持つべきである。

(4) その他について

●吉澤部会長

御議論が尽きないところだが、時間が迫ってきた。

第2回及び第3回において意見交換を行うので、委員の皆様には、次回に向けて、新たなアイデアや現状の取組の改善点などを考えておいていただければと思う。

それでは最後に、「その他」として、連絡等はあるか。

□事務局

次回第2回は、6月29日(水)午後1時から同会場にて開催する。今回の議事要旨はもとより、本日いただいた御意見を一覧表にし、県の対応状況等も記載した資料を準備することとしている。

□杉田観光戦略課政策監

本日は長時間にわたり御審議いただき感謝申し上げます。以上をもって、令和4年度第1回観光・交流部会を閉会する。